

紙ふうせん

KAMIFUSEN No.71

成田市立図書館だより 第71号 2011年（平成23年）3月31日発行

編集 成田市立図書館 〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3 ☎ 0476-27-4646
FAX 0476-27-4641

<http://www.library.narita.chiba.jp>



「デジタルカメラ講習会」2011.1.29

デジタルカメラを使った撮影技法やパソコンを使った画像の取り込み、編集を学びます。視聴覚サービスセンターでは、16ミリ映写機操作技術講習会、ビデオ講習会、写真講習会などを開催しています。講習会の募集などについては「広報なりた」をご覧ください。

平成22年度図書館文学講座

「江戸時代はエコ時代」

講師 作家、江戸文化研究者

石川 英輔 氏 2010. 11. 6



現代の日本は恵まれた生活とされていますが、じつはとても不自然な生活なのです。車をはじめとし、便利ではあるけれど、多くのエネルギーを使わないといけないものに頼って暮らしています。そして、もはやそれらがなければ生活できない。多くのエネルギーを使わなければ成り立たない社会ができあがってしまったのです。養老孟司氏は「石油を早く使っちゃえ！石油がなくなって困ることはないんだ」と言っています。

石油の産油量が減り、じわじわと石油価格が高くなっていけば、人々は石油に頼らない生活をするようになるでしょう。江戸時代の人々は、太陽エネルギーで生きていました。自分の手足を動かして、あらゆるものを作っていたのです。それは、高度の熟練と体力が必要で、今と比べれば不便だったことは確かです。しかし、穏やかに自然と共存する江戸時代の暮らしは、われわれにとって最も身近でほぼ完全な循環型社会でした。そして、昭和30年代までの日本の暮らしは、そんな江戸時代の暮らしに近かった。エコというとすぐに環境先進国と言われる外国をモデルに取り上げるが、人口密度のまったく違う外国を真似ても、参考にはならないのです。環境破壊は、じつは西洋から始まっています。私たちは、江戸時代の日本の暮らし、そしてそれに近かった昭和30年までの昭和の暮らしを参考にしたほうがよいのです。昔はこうしていたと覚えている人も多いですし、その暮らしぶりは想像しやすいものです。江戸時代の生活に戻ることで、今よりのどこかで、健康的な暮らしが待っているのではないのでしょうか。



石川氏の軽妙でユーモラスな話術に魅了され、会場は温かい雰囲気になっていました。受講された方からは「子どもの頃の生活を思い出し、懐かしく思った。」「普段の生活を見直すよききっかけができた。」「また、「江戸時代の暮らしや、エコ社会についてもっと聞きたかった」と感想を寄せていただきました。講演では紹介しきれなかった食生活や衣類など江戸時代の人々の生活は、石川氏の著書にも紹介されています。

『実見江戸の暮らし』 講談社

『歩きたくなる大名と庶民の街道物語』 新人物往来社

『江戸時代はエコ時代』 講談社

『江戸と現代 0と10万キロカロリーの世界』 講談社



今年度の文学講座は、作家であり江戸文化研究者でもある石川英輔氏を講師にお迎えし、講演していただきました。石川氏はNHKで放送していた「コメディ―道中にござる」の解説者としてもおなじみの方で、SF小説や時代小説、エネルギー問題からエコロジー生活についてと幅広く執筆されており、全国各地で講演活動もされています。



現代の日本は恵まれた生活とされていますが、じつはとても不自然な生活なのです。車をはじめとし、便利ではあるけれど、多くのエネルギーを使わないといけないものに頼って暮らしています。そして、もはやそれらがなければ生活できない。多くのエネルギーを使わなければ成り立たない社会ができあがってしまったのです。養老孟司氏は「石油を早く使っちゃえ！石油がなくなって困ることはないんだ」と言っています。

石油の産油量が減り、じわじわと石油価格が高くなっていけば、人々は石油に頼らない生活をするようになるでしょう。江戸時代の人々は、太陽エネルギーで生きていました。自分の手足を動かして、あらゆるものを作っていたのです。それは、高度の熟練と体力が必要で、今

成田市関係新聞記事データベース

図書館では、成田市が成立した1954年（昭和29年）7町村合併からの成田市域に関する主な新聞記事見出しをデータベース登録しています。新聞縮刷版やマイクロフィルムと合わせて、成田市に関する古い新聞記事を読むことができます。

例えば、1973年（昭和48年）3月に完成し、長い間成田ニュータウンの発展を見守り続け、先日解体された「センタービル」について調べてみましょう。データベースから1985年（昭和60年）1月19日の読売新聞に「厳戒、成田ニュータウン・センタービル」という記事があることがわかります。マイクロフィルムで、実際の新聞記事を見ました。



当時、センタービルには成田空港関連の事務所が入っていたため、抗議行動に備えて、ガードマンが入館のチェックをしていました。ビル内の歯科医院や売店へ弁当を買いに行くのにも、住所・氏名の記入を求められる厳戒態勢は、まるで落語の世界のようだが、経営者にとっては、笑えないことだと新聞記事に記載されています。

新聞縮刷版やマイクロフィルムは2階参考資料室で閲覧することができます。ぜひ、ご活用ください！

センタービル解体作業の様子



2010年12月25日撮影



2011年1月10日撮影



1983年（昭和58年）に撮影された図書館建設予定地の写真です。空き地部分に、現在の市立図書館が建設されました。

高くそびえるセンタービルも、日航寮も今では姿を消しました。



赤ちゃんも絵本が大好き Part 14

「おててがでたよ」

林 明子／作 福音館書店

あかちゃんが、赤いお洋服を着ようとしています。最初は、ぱっおててがでたよ。お次は、ぬうー あたまがでてきた。ページをめくると、おてて、あたま、おかおが順番に出てくる楽しい絵本。



「ごぶごぶごぼごぼ」

駒形克己／作 福音館書店

ぷく ぷく ぷく ぷくん、ごぶ ごぶ ごぼ ごぼ、じゃわ じゃわ じゃわー。その言葉のリズムが心地よく響きます。単純な言葉と、きれいな色の円だけで構成された厚紙絵本です。めくるのが大好きなあかちゃんにもお勧めです。



「がちゃがちゃどんどん」

元永定正／作 福音館書店

がちゃがちゃ どんどん、ぱん ぱん、ぱちん…など、あかちゃんは擬音が大好き。そんな言葉にぴったりの絵を見ながら、あかちゃんと一緒に楽しんでください。『もこ もこもこ』や『ころころ』などの絵本でおなじみの作者によるお勧めの1冊です。



編集後記

ある日曜日の午後、外から楽しそうな笑い声が聞こえてきました。図書館北側の日陰に残った雪で、元気に遊ぶ小学生を見つけ思わずパチリ！いつの間にか春はもうすぐそこまできていますね。入学や就職の新しい出会いの季節ですが、卒業や転勤の別れの季節でもあります。市外への転出、市内での転居をされる方は図書館までご一報ください。

成田市立図書館だより No. 71
 発行 成田市
 編集 成田市立図書館
 〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3
 ☎0476-27-4646
 発行日 2011. 3. 31
 登録番号 成教図10-58



リサイクル適性 (A)
 この印刷物は、印刷用の紙へ
 リサイクルできます。